

# 東日本大震災からの復興に向け、岩手県を訪問!

東日本大震災の被害を絶対に風化させない! 復興が完了するまで支援する!—この方針のもと、いま何を支援すべきかの調査のため、2012年10月15日より都議会公明党として岩手県を訪問しました。

おおひなと  
大船渡市では、フラッシュバックに苦しむ児童への支援、地盤を4mあげる防災対策を一刻も早く始めることなど、国と連携した取り組みを約束。



陸前高田市の戸羽太市長から要望をうける  
こいそ善彦(左端)

りくぜんたかた  
陸前高田市では、町田出身の戸羽太市

長を表敬訪問。陸前高田をバリアフリーのモデル都市にしたいとのビジョンを語りあい、バリアフリーの専門家派遣を交えての検討を開始しました。

おおつち  
大槌町では、東京都へのがれき搬出現場を視察。全国的に広域処理がなかなか進まない現状、着工率1%台の復興住宅、遅れている漁業・農業・産業復興や街づくり等、公明党としてもさらなる被災地支援の取り組みをしております。



釜石市の被災地を視察するこいそ善彦(左端)

## 都議会議員3期

### 皆さまのおかげで“実現”できました!

- スーパー防犯灯や大型交番設置により、11年間で犯罪発生件数がなんと5割減少
- #8000番による小児救急電話相談を開設
- 6カ月定期の導入で、都職員の通勤手当のムダを年間34億円もカット
- 米軍ジェット機の騒音を軽減する防音工事の対象を80戸から4万7000戸に拡大
- 節電のための「でんき予報」を10年前から実現



### 川崎市との水相互融通が実現

専修大学名誉教授 吉家 清次氏

こいそ都議とは、10年近いお付き合いになります。問題意識が高く、勉強熱心で、精力的に活動するこいそ都議に、私は人間的に惚れ込んでいます。それに、新聞記者の経験があるからでしょうか、非常に勘がいい。これは政治家として重要な資質です。6~7年ほど前から、「サボテンの会」という勉強会で、その時々



川崎市との水相互融通訓練を視察するこいそ善彦

の諸問題について議論を交わしていますが、こいそ都議が06年に実現した「川崎市との水相互融通」は、「災害時、多摩川や境川の橋が崩落するなど甚大な被害が生じた場合、水を融通しあえるのは地続きの川崎市だ」との私の主張を理解してくれ、都と県の壁を超えて形にしてくれました。これからも、次の時代の都政を担う都議会議員として活躍してほしいと期待しています。

## 声 Voice

### 都営住宅初の太陽光発電システム

町田市木曾東1丁目・木曾親和会自治会長 紅林 里志氏



私どもは都営住宅で暮らしていますから、何かあればいつもこいそ都議に相談をしています。以前、都営住宅への太陽光発電システムの設置を提案したのですが、こいそ都議は早速、東京都に相談してくれ、なんと木曾森野第1アパートに都営住宅初の太陽光発電システムの設置が実現したのです(写真)。行動力は、こいそ都議が本当に一番です。大型生ゴミ処理機の設置も、こいそ都議の尽力によって実現しました。設置には土地が必要になりますが、この件も、こいそ都議が東京都に相談してくれ、都の職員が現地調査に来てくれました。この機械があれば、毎日でも生ゴミが捨てられます。実は、これが高齢者の安否確認になり、地域交流にも一役買うのです。どんな相談にも誠実に、熱心に、耳を傾けてくれるこいそ都議に感謝しています。

# こいそ通信

Vol. 53

発行 こいそ善彦後援会  
〒194-0021 東京都町田市  
中町4-8-18

<http://koiso.org>

「あいさつ」



日頃より、皆さまには温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

3・11東日本大震災では、被災地に何度も赴き、ボランティア活動に取り組みさせていただきました。また、被災者の方々の声を伺い、復興支援につながるよう、取り組ませていただきました。

そして、大震災を教訓として、発生確率の高い首都直下型地震への防災・減災への提案を、都議会代表質問、予算特別委員会で全力で訴えてまいりました。

いま、災害、経済不況、高齢社会、いじめ問題、子育て、医療など、都民の皆さまが抱えている「不安の声」に対して、安心して過ごせる社会を構築していくことが、政治に求められていると思います。

私は、今こそ「いのちを、くらしを、この町を守る」ために真剣に皆さまの声を傾け、これまで以上に行動し続ける決意です。皆さまの一層のご支援を心からお願い申し上げます。

東京都議会議員 こいそ善彦

## 実現

### こいそ善彦の提言で、東京都で「不妊・不育ホットライン」がスタート!



妊娠後に死産や流産を繰り返してしまう「不育症」<sup>ふいくしょう</sup>。国内では140万人の方が苦しんでおり、さらに毎年3万人の方が発症しているといえます。適切な検査と治療で85%の方は出産が可能になるとはいえ、誰にも相談できずに悩んでいる女性が多い現状を知ったこいそ善彦は、2012年3月の都議会予算特別委員会にて、都の不妊症の相談窓口で「不育症」にも対応すること、そして相談員への新たな研修を実施するよう訴えました。都はこいその訴えを受け、2012年9月から「不妊・不育ホットライン」を

開設。国レベルでは、公明党の国会質問をきっかけに、10月4日から厚生労働省のホームページで、全国に49ある「不育症」の相談窓口の連絡先、相談方式などを明記した一覧表が公開されました。(東京都「不妊・不育ホットライン」☎03-3235-7455)



厚生労働省のホームページ



皆さまの「安心・安全」のために

# 守ります

いのちを くらしを この町を



Yoshihiko **KOISO**  
こいそ善彦

## いのちを守ります

### インフルエンザ、おたふくかぜなどの 予防接種に、公費助成を！

公明党は、これまで全額個人負担であった乳幼児の細菌性髄膜炎びいまくえんを予防するヒブワクチンしように ようはいえんきゆうきん、小児用肺炎球菌ワクチンしきゆうけい、子宮頸がん予防ワクチンの接種に対する公費助成を、町田市で実現。財源は都議会公明党の提案で、「医療保健政策区市町村包括補助金」があげられています。

こいそ善彦は、おたふくかぜを予防するムンプスワクチン、インフルエンザ予防ワクチンなどの予防接種に対して、公費助成の実現に取り組んでいきます。



### がん早期発見のため、ピロリ菌除去の促進と、 最先端医療機器の導入を！

胃がんや胃かいようの原因ともいわれるピロリ菌。なんと日本人の2人に1人が感染しているとの調査結果も。それなのに、健康診断の項目にピロリ菌検査が入っていません。こいそ善彦は、早期発見・早期除菌のため、検査にかかわる公費負担の導入や、「ピロリ菌外来」の普及に、真剣に取り組んでいきます。また都立駒込病院への最先端の放射線治療機器3台の導入が、都議会公明党の主張で実現。手術に加え、放射線治療や化学療法と組み合わせ、治療率向上が期待されています。今後は多摩総合医療センター（府中市）にも導入するよう、こいそ善彦は推進していきます。



駒込病院の放射線治療機器を視察する  
こいそ善彦(右から4人目)

## くらしを守ります

### 原発ゼロ社会をめざし、 町田市を再生可能エネルギー 先進都市に！

太陽光パネルを自宅に設置するには、補助金はあるものの、初期投資が高額です。そこでレンタル・リース方式を導入するなど、さらなる普及促進策を検討しています。さらに、こいそ善彦は、都議会公明党再生可能エネルギープロジェクトチーム座長として、ビルや工場などの屋根を借り受けて発電を行う「屋根貸し事業」や、都営・市営住宅や学校など公共施設の屋上に、順次、太陽光パネルを設置していきます。



### 働く保護者のために、 保育所の新設や整備を促進！

こいそ善彦は、公明党の伝統でもある子育て支援をさらに充実させるため、「保育所の新設」や未就労の保護者でも利用できる「認定子ども園制度の拡充」を進めていきます。また、パートタイム勤務や短時間勤務の方でも入りやすいように、保育所などで一定程度継続的に保育する、「定期利用保育」の拡充にも努めます。



## この町を守ります

### 町田消防署の移転・建て替えで、 新消防署を防災中核拠点に！



築50年が経過した町田消防署(中町、左写真)。以前より建て替えの必要性を訴えてきたところ、木曽山崎団地地区の学校跡地を町田市が提供。新消防署を建設する方針が示されました。こいそ善彦はこの建設予定地を、防災備蓄倉庫や大災害時の救援物資の受け入れ・配送に活用できるオープンスペースにするとともに、防災訓練などにも利用できる防災中核拠点にするよう取り組んでいきます。

### 上下水道や電線地中化など 「ライフライン耐震化プロジェクト」を推進！

災害時のライフラインである水道水確保のため、町田市民が利用する給水所13カ所の耐震性を調査したところ、耐震済が4、要補強が5、要診断3、廃止が1カ所という結果に。また水道管の継手部分が地震により破損しやすいことも判明しました。こいそ善彦は、水道管の継手の耐震化100%を推進するとともに、給水所の耐震化を進めます。同時に、下水管や下水処理場の耐震化、停電時に稼働できる自家発電能力の強化にも取り組んでいきます。



鎌倉街道(中町4丁目付近)で  
行われている地中化工事